

令和元年度町政懇談会・住民説明会議事録

- 1 日 時 令和元年 11 月 7 日（木）14：00～15：30
- 2 場 所 いわき市中央公民館 2 階中会議室 1、2（いわき市）
- 3 出席者（町側）伊澤町長、金田副町長、館下教育長、平岩総務課長、橋本教育総務課長、大浦復興推進課長、猪狩建設課長、中野住民生活課長、舶来健康福祉課長、志賀産業課長、朝田生活支援課長、高橋戸籍税務課長、鈴木秘書広報課長（13 人）

出席者（国側）由良原子力災害現地対策本部副本部長、師田原子力災害現地対策本部総括・広報班長、栗本内閣府原子力被災者生活支援チーム参事官、高木福島地方環境事務所環境再生課長、吉田福島県避難地域復興課主幹、小林原子力災害現地対策本部主査、大川福島地方環境事務所県中・県南支所富岡分室拠点区域解体担当専門官、江藤福島地方環境事務所建物解体廃棄物処理推進室長、北野内閣府原子力被災者生活支援チーム主査、齊藤復興庁原子力災害復興班参事官補佐、宮部内閣府原子力被災者生活支援チーム支援調整官、野口内閣府原子力被災者生活支援チーム参事官、佐々木資源エネルギー庁原子力損害対応室企画調整官、高倉内閣府廃炉・汚染水対策現地事務所課長補佐（14 人）

4 町民出席者 38 人

5 町長あいさつ概要

今年の町政懇談会は、国との共催により今回お示しする避難指示解除準備区域及び J R 双葉駅周辺等の一部区域の避難指示の解除に関する住民説明会と併せて、関係機関の出席を得て町民の皆さまにその内容をご説明し、ご意見をお伺いしたい。

○町内復興の取り組みについて

1) 中野地区復興産業拠点の整備については順調に工事が進み、町で整備する産業交流センターや県の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の建設も進められており、ともに来年夏頃のオープンを見込んでいる。

また併せて、地元雇用の創出につなげるため、同拠点内に立地いただく企業の誘致を進めているが、現在 11 件、16 社との立地協定締結を行った。さらに 10 数社の企業との協定締結に向けての協議を進めているところ。ぜひとも町内事業者の方々にも中野地区復興産業拠点への立地についてご検討をお願いしたい。

2) 10 月 1 日に駅西地区において安全祈願祭と起工式を執り行った。令和 4 年春頃の居住開始を目指し、帰還者や就業者向け戸建て住宅 32 戸、集合住宅 56 戸を県が代行して整備し、町民の皆さまの帰還環境整備を進めていく。

3) J R 常磐線の双葉駅橋上化及び自由通路新設工事については、令和 2 年 3 月中の常磐線全線開通に合わせ工事が順調に進んでいる。

4) 特定復興再生拠点区域内の除染・建物解体については、区域の 555ha 全域での除染・建物解体が進んでいるところ。町としては特定復興再生拠点区域だけを復旧・復興させるということではなく、町内全域の帰還に向けた重要な第一歩であると考えている。まずは特定復興再生拠点区域から町の復興を集中的に進めた上で、今後の工事の進捗を踏まえつつ、引き続き特定復興再生拠点区域の段階的な拡張を国に強く求めていく。

5) 特定復興再生拠点区域内の農地除染については、羽鳥・長塚地区の一部の耕作再開モデルゾーンで実施されており、下長塚地区の新産業創出ゾーンにおいても農地除染が始まっている。

引き続き、農業再生ゾーン、まちなか再生ゾーンの農地についても、除染を進めるために行政区長及び地権者等と話し合いを行いながら、除染後農地の保全管理に関する体制の構築を図っていく。

また、本年 8 月には宮城県仙台市の株式会社舞台ファームと農業の再生・新興等に関する包括連携協定を締結。今後、舞台ファームとの協働により、双葉町の産業である農業の復興・創造を目指し、地元農業者との連携や新たな販路確保、担い手の育成等に関してさらなる取り組みを行っていく。

6) 寺沢地区に設置される常磐双葉インターチェンジについては、令和 2 年 3 月の供用に向け整備が進められており、完成した際には復興の加速化、一時立ち入りの際の利便性向上に大きく寄与するものと期待している。

インターチェンジへのアクセス道路となる県が整備している復興シンボル軸については、今年度末の常磐双葉インターチェンジ供用開始時には、現在の J R 常磐線杉下踏切を使用しての暫定供用となり、来年夏には国道 6 号より東側の工事箇所が進み、令和 4 年 3 月には J R 常磐線跨線橋が完成し、全線開通となる予定。

○中間貯蔵施設に係る町有地について

昨年は双葉 2 期 1 工区など土壌貯蔵施設用地として約 6.4ha について地上権設定契約、そして約 5.4ha について売買契約を締結した。

町としては、今後とも除去土壌等の県外搬出及び最終処分が確実に履行されるよう、環境省の取り組みを注視するとともに、法令及び協定遵守についてしっかりと国に求めていく。

県内で発生した除染廃棄物である除去土壌については、輸送開始から今年 9 月までに各町内保管場を含む中間貯蔵施設全体へ輸送された総量は約 419 万 m³。搬出元については、平成 27 年度は県北、県中、浜通りの 20 市町村、平成 28 年度以降は、県北及び双葉町以北の浜通り地方の 15 市町村となっており、環境省では令和 3 年度までには、県内に仮置きされている除去土壌等を概ね搬入完了を目指している。

○生活サポート補助金について

避難されている町民の皆さまの生活を支援するため平成 28 年度から令和 7 年度まで 10 年間の「生活サポート補助金」事業を実施している。平成 29 年度の受給率は 9 月末現在で 90.97%、平成 30 年度は 82.30%となっており、引き続き、受給漏れのな

いように対応策を講じていく。

○高速道路通行料金、医療費の一部負担等の免除について

現在、「ふるさと帰還通行カード」が導入され、令和2年3月31日までの無料措置の延長となっているが、さらに延長するよう国に求めている。

医療費の一部負担金等の免除、その他現在実施されている生活再建に係る支援等についても継続されるよう、国及び関係機関に働きかけていく。

6 国あいさつ概要

昨年7月から現地対策本部という形で福島県浜通りを中心に活動をしている。本日は町政懇談会に、避難指示の解除に関する説明会も兼ねて参加をさせていただいている。

避難指示の解除の関係で、国からもご説明をさせていただきたい。

○浜野、両竹の避難指示解除準備区域について

浜野、両竹の避難指示解除準備区域においては、中野地区復興産業拠点への企業誘致、震災の伝承館、復興祈念公園などの整備が進められている。

○帰還困難区域について

特定復興再生拠点区域という区域設定の計画に基づいて、除染や宅地整備などの環境整備が進められている。

またJR常磐線についても、全線開通並びに双葉駅の再開を予定しており、これらに対応するために双葉町としては、来年の3月、2022年の春頃の居住開始目標に先立って、来年の3月末までに先行して避難指示を解除する区域の、対象区域の案をまとめている。国としても、その区域を解除していくことが必要であると考えている。この11月に11カ所で開催をされる住民説明会で町民の皆さまからのご意見をお伺いし、その上で改めて町当局等と相談をして最終的に判断をしてまいりたい。双葉町の復興のために着実に取組みを進めていく。

7 説明（住民生活課長、国）

○双葉町避難指示解除準備区域とJR双葉駅周辺等の一部区域の避難指示解除について

8 懇談

（町民：男性）

固定資産税については、避難指示解除準備区域と特定復興再生拠点区域の取り扱いと同様と言っていたが、理解できないので説明してほしい。

また、各種支援措置（固定資産税、応急仮設住宅・借上げ住宅の供与期間、医療費の一部負担金及び国民健康保険税、介護保険利用料及び保険料の免除措置等、高速道路の通行料金の無料措置）について、避難指示解除準備区域のことか、町全体のことなのか、もう少し詳しく説明してほしい。

(伊澤町長)

固定資産税については、浜野・両竹地区の避難指示解除準備区域と双葉駅とその周辺等の特定復興再生拠点区域の令和2年春に避難指示解除が予定される区域についても、令和4年春までは、町内全域で制度を一律にしたいという考え方から、差のないように減免の対応とする。

(中野住民生活課長)

その他の支援についても、町内全域となる。固定資産税の考え方と同様に、先行する避難指示解除区域とその他の区域に差のないよう取り扱うということで、ご理解いただきたい。

(金田副町長)

補足として、固定資産税は、先行して避難指示解除する浜野・両竹地区において、解除後に税法上では動き出すが、町としては他の区域との差がないようにと考えている。各種支援措置についても町内全域で継続されるように要望している。

(町民：男性)

町の取り組みを聞いて、復興が目に見えて加速していることに力強さを感じた。町民は自立や生活再建に取り組み、地域に馴染むよう努力している。町民が帰還する、しないに関わらず、ふるさととは大切な所であると感じるが、町への帰属意識ときずなの維持について、町はどのような手立てを考えているのか。

(伊澤町長)

町に戻るか戻らないか判断できない、また、戻らないと判断した方についても双葉町民に変わりはなく、その方々に対して、町はさらに生活再建の支援のため今後検討し、お示ししたい。

まずは、情報の共有が必要であるということから、紙媒体やホームページやタブレットによりタイムリーに情報を発信していくことが大切だと考えている。

また、高速道路通行料金の無料措置や医療費の一部負担金については国に要望をしている。戻らないと回答している町民の約70%も町と関わりを持ちたいという意向を持っている。まずは、その方々が、先祖のお墓参り等で一時帰宅した際に利用できる温浴施設等の宿泊施設を駅西地区に造る構想をしている。今後、町の取り組みについて皆さまにお示ししていきたい。

(町民：男性)

温浴施設等の宿泊施設については、行政区の総会を行えるようなことも念頭に入れて、構想してほしい。また、解除後の立ち入り規制に変更はあるのか。

(伊澤町長)

行政区の総会を行えるような宿泊施設も頭に入れて構想しており、安価に利用できるようなイメージで考えている。

(中野住民生活課長)

特定復興再生拠点内については、国道6号のゲートがなくなる。拠点内と拠点外の帰還困難区域の行き来をする場合はゲートかバリケードを通ってもらう。拠点外の帰還困難区域から持ち出す物についてはスクリーニング場を通っていただきたい。

(栗本内閣府原子力被災者生活支援チーム参事官)

スクリーニング場を通らなくてもよくなるが、希望者には線量計の貸し出しを行っていく。また、年齢制限は設けていない。持ち出す物がある場合には、スクリーニング場を通してほしい。

(町民：男性)

拠点内にある自分の家と土地を買い上げてもらったが、住所はなくなるのか。

(伊澤町長)

中間貯蔵施設建設予定地内の自宅を用地として協力していただいた町民と同様に、町民でいたいという意志があれば、継続して住所を置くことは可能。中間貯蔵や特定復興再生拠点区域内の自宅を協力していただいた方、また復興再生拠点区域外の帰還困難区域の方についても、駅西地区に住宅や土地を整備して、住めるようにしていく。

住所については、令和4年春までは問題ないが、それ以降については国と対応を協議して、それまでに回答できるようにしたい。

(町民：男性)

駅西エリアに住む場合は、令和4年春以降に住所を変更することで良いか。

(伊澤町長)

そのとおり。

(町民：男性)

特定復興再生拠点区域内の放射線量は低減化していると言っているが、自分で側溝やため池を測定すると線量が高い場所がある。避難指示解除になっても、このような線量が高い場所をどのようにするのか。

(高木福島地方環境事務所環境再生課長)

面的に除染を行い低減しているが、側溝など部分的に線量の高い場所があれば必要に応じて除染していくのでご理解願いたい。

(町民：男性)

応急仮設や借り上げ住宅を別荘のように使用している町民がいると聞いている。悪用

している人がいれば早急にやめさせてほしい。

(鈴木秘書広報課長)

ご意見としてお聞きする。

(町民：男性)

懇談会で意見を出してくれと言われても、マスコミがいると萎縮して言えなくなってしまうので、気軽に意見を言えるような形にしてほしい。

中間貯蔵施設のため国に自宅を用地として協力したので、令和4年春以降から住所がなくなる可能性がある。そのため、協力した人については、例えば住所を駅西地区のどこかの地番に置けるような措置がとれるように、国に働きかけてほしい。

町は、他と同じような公共施設を造っても魅力がない。国内外いろいろな所を視察して、町にフィードバックすることで、帰りたいと思うような魅力あるまちづくりをしてほしい。

(伊澤町長)

町としては、議会の全員協議会を含め公平公正に報道するという一方で、マスコミ等についてはフルオープンに公開すると考えている。

住所については、復興事業に協力して頂いた方々が令和4年以降も住所を置いておけるように国と協議を進めていきたい。

町職員にも、自分達もどりたい、住みたいと思うまちづくりをするように常日頃言っている。今後、先進地視察ということも重要だと感じているので、議会の理解が得られれば、予算も獲得していきたい。

住みよいまちづくりをするために、他町村との差別化を進めたいと考えている。まずは、災害に強いまちづくり、その一つの方法として電柱の地中化を国と交渉している。また、住民に優しいまちづくりとして、高齢者のような交通弱者のために、安心して歩けるような交通事情を推進していきたい。その一つとして、自動運転自動車の導入のような斬新なことも考えていきたい。皆さまから色々なアイデアをいただいて、具現化していくことも必要だと思うので、斬新な考えやアイデアを出していただければ、戻って住みたいまちづくりの取り組みを進められると思う。

(町民：男性)

魅力あるまちづくりの参考として山口県の星野リゾート施設は、町長にぜひ見に行っ

(町民：男性)

駅西地区の自宅を買い上げてもらったが、町で整備する駅西地区の土地を求めるときは、どのくらいの金額になるのか。

(伊澤町長)

造成等の費用は加算されるが、常識の範囲内での価格を想定している。

9 閉 会